

学校安全ボランティア活動奨励賞の文部科学大臣表彰

松枝小学校ふれあいサポーター・松枝ふれあいたい

近年、学校や登下校時に子どもたちが巻き込まれる事件・事故が、数多く発生しています。このような状況を踏まえ、文部科学省では、学校において家庭や地域の団体などと連携を図り、継続的な安全向上のための活動を推進しています。今年度からは「学校安全ボランティア活動奨励賞」が設けられ、松枝小学校ふれあいサポーターと松枝ふれあいたいとは、全国から選ばれた四十団体の一つとして栄誉ある賞を受賞しました。

授与式は十一月十三日、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、代表としてサポーターの青木栄次さんが、渡海紀三朗文部科学大臣から表彰を受けました。

松枝小学校ふれあいサポーターは、平成十五年四月に設立され、児童たちの登下校の安全確保や、学校内を巡回する不審者対策などの活動を行ってきました。また、平成十六年には、散歩や買い物などの途中や自宅前で下校の児童を見守る会を立ち上げたいと地域の皆さんに呼び

かけたところ、三十一人のかたが松枝ふれあいたいとして加わりました。現在は総勢八十七人の地域の皆さんが、毎日の登下校時にオレンジ色のジャンパー姿で通学路の危険な場所に立ち、交通安全や不審者の対応にあたり、児童の安全を見守っています。

松枝ふれあいたいが見守る中
登下校する児童たちへ通学路で



地域から自主的に立ち上がった松枝小学校ふれあいサポーター

第三回道徳教育奨励賞（小学校の部）

笠松小学校が最優秀賞に選ばれる

日本会議岐阜県本部による第三回道徳教育奨励賞授与式が十二月一日、県水産会館大ホールで行われ、小学校の最優秀賞に笠松小学校が選ばれました。同賞は「心の通う教育の実践校に贈るエール」との呼びかけのもと、県下の小中学校で、地域・学校・クラスなどが協力し合って道徳的な教育を推進し、成果を収めている学校に授与されるもので、今年は十六校からの応募がありました。

当日は、会長の藤井孝男参議院議員より児童代表者の臼井千裕さんと間野涼子さん（共に六年生）へ表彰状などが手渡された後、笠松小学校の道徳教育実践内容を報告しました。

笠松小学校では、昭和四十三年から四十年にわたり道徳の実践力を備えた児童の育成に取り

「ター・松枝ふれあいたいのこうした活動が認められたことは非常に喜ばしいことです。今後も、家庭と地域と学校が連携を深めて、活動を継続していくことを願います。」

組み、道徳教育の研究を継続しています。道徳授業のほかにも次の取り組みを行い、特色ある道徳教育を実践しています。

○菊づくり

地域の菊作り名人の伏屋武芳さんの指導を受け、六年生が一人一鉢の大菊を育てあげ、見事な大輪を咲かせています。その大菊は役場や公民館などに展示し、皆さんの心を和ませています。また、五年生も地域の保母維久子さんの指導のもと、約三百鉢の小菊の栽培を熱心に行い、祖父母・家族参観日に来校したお年寄りにプレゼントし、大変喜ばれています。このような地道な植物の世話を通して「生命の大切さ、はかなさ」「弱者をいたわる心」を育んでいます。

○道徳実践のアンケート評価
学校の教育目標に掲げている



6年生が伏屋さんの指導を受け栽培した大菊

十二の道徳実践項目をアンケート形式にして、親が四月と十二月の年二回の評価をし、児童の成長を親も児童も先生も数値としてつかむことにしています。四月の結果をもとに十二月の数値目標をマニフェストとして設定し、道徳実践の達成意欲の高まりに繋がっています。

これからも四十年間にわたって取り組んできた道徳教育の研究をより一層推進し、家庭や地域社会と協力し合い「よく考える頭」「やさしい心」「進んで働く手足」を備えた笠松小学校児童を育み、大人になっても実践できる道徳心を持ち、未来の笠松町を担う人材となることを目指します。